



## オンラインでコロナ禍での発表会を

町田駅周辺エリアのとなり、高ヶ坂・成瀬地区。コロナ禍で活動発表の場がなくなってしまった子ども達や、外出の機会が減ってしまった高齢者のために、地域を元気にする交流イベントを企画。実施に向けて感染症対策の様々な検討が行われた。

その中の1つに、小川高校と成瀬コミュニティセンターをオンラインでつなぐ演奏会の試みがあった。オンライン環境を整備する中心メンバーとなっていたのは、小川高校で化学を教える教師、永島裕さん。吹奏楽部の顧問をしており、自身もチューバなどの金管楽器を中心に演奏している。

「コロナ禍で、全く活動や発表ができていませんでした。そのような中、地域の方からイベントに誘っていただき、非常にありがたかったです。自分たちで申し込みをするコンクールとは違い、誘っていただいて出演する地域のイベントは特別で、生徒たちも充実した表情で演奏するんです。」音楽を通じて、生徒と地元の方との交流も生まれるという。

2020年12月、小川高校と成瀬コミュニティセンターを双方向でつなぐ配信テストが行われた。マイクの特性に合った曲目を演奏することで、オンライン配信でも明瞭な音声が届くことが分かった。

残念ながら、イベント自体は二度目の緊急事態宣言発出により中止となってしまったが、吹奏楽部の中でもオンラインを活用した発表の場をつくりたい、という声が上がっている。「地元の方、家族や知り合いに見てもらえることが生徒の一番のモチベーションだと思っています。コロナ禍の状況にもよりますが、工夫して地域のイベントにも出演していきたいですね。」永島さんをはじめとしたみんなの熱い思いが、地域と学校をつないでいる。



配信テストの様子。映像、音声ともに高品質を目指した。



忠生子どもフェスティバルでダンスの発表をするH☆Bステッパーズの子も達。

## ダンスで町田のみんなを元気にする

住宅街が広がり、緑も多い忠生地区。子ども達に地元忠生で思い出を作ってもらいたいと「忠生子どもフェスティバル」を年1回開催している。このイベントに2年前から参加しているキッズダンスチーム「H☆Bステッパーズ」インストラクターの光延恵子さんに話を伺った。

「イベントがあると、子ども達のレッスンに向かうモチベーションが違います。次

のイベントまでにレベルを上げようと、必死に努力するのです。」

有名アーティストのバックダンサーなど、プロのダンサーとして数々の舞台に立ってきた光延さん。自身の子育てを機に、町田市へ転入してきた。子育てをしながらダンサーとしての経験を活かして何かできないか、と思ったときに、今の活動を始めた。ダンススタジオでのレッスンで



はないが、近所の施設でダンスを教えられるのが好評で、メンバーは50人にも上るといふ。

そのような中で、地域で開催されているイベントは、子ども達にとっても貴重な発表の機会になっている。「本当に熱中できるものを見つけた子ども達は、大人たちから見て分かるくらいの変化があるんですよ」と、光延さん。実際、ブレイクダンスにはまる男子生徒も多いそうで、子ども達

の親や学校の先生から感謝されることもあるという。

「コロナ禍で不安が広がる今だからこそ、表現することを通じて想いを伝えていきたい。そこから何かを感じてもらえたらうれしいし、良い影響を与えられるのではないだろうか。今は子どもたちを教えますが、ゆくゆくは高齢者のためのダンスにも携わってみたいです。自分も年齢を重ねるので…」と笑顔で話してくれた。



H☆Bステッパーズには、幼稚園児から高校生まで、約50人が所属する。先生の熱い指導に、子ども達もダンスで応える。